

各部（次）長

各課（局・室）長 殿

企 画 部 長

令和8年度予算編成方針について（通知）

このことについて、富谷市財務規則（昭和50年富谷町規則第8号）第9条の規定に基づき、市長の命を受けて令和8年度予算編成方針を定めたので通知する。

1 日本経済の状況及び国の予算編成の動向

日本経済の状況は、内閣府が公表した直近の月例経済報告によると、景気は、米国の通商政策等による影響が一部にみられるものの、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要があるとされている。

国の予算編成は、令和8年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について（令和7年8月8日閣議了解）によれば、令和8年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針2025」（令和7年6月13日閣議決定）に基づき、歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、予算の中身を大胆に重点化。要求・要望は賃金や調達価格の上昇を踏まえて行い、予算編成過程において、物価上昇に合わせた公的制度の点検・見直しも踏まえ、経済・物価動向等を適切に反映するとされている。

2 富谷市の財政状況及び今後の財政見通し

本市の財政状況は、令和6年度決算においては、一般会計を含む全ての会計決算において黒字となり、財政健全化判断比率では早期健全化判断比率を大きく下回るとともに、公営企業会計の資金不足判断比率も算定されることなく、引き続き健全な財政運営が図られている。今後の財政見通しは、歳入においては基幹的な歳入である市税収入が、転入人口や個人所得の増加などの要因により増加が見込まれる。一方、歳出においては、義務的経費である人件費、扶助費及び公債費の増加が見込まれるほか、公共施設の老朽化対策の経費が見込まれる。

3 予算編成基本方針

令和8年度の予算編成では、このような厳しい財政見通しの中にもありながらも、限りある財源を最大限活用するため、事業の選択と集中を行い、市民ニーズに合致した政策効果の高い施策に取り組んでいく必要がある。さらに、市債発行の抑制及び財政調整基金の取崩しを抑制し、引き続き健全財政を推進するため、以下の内容を踏まえ、適切な予算要求を行うこと。

- (1) 総計予算主義の原則に従い、年度内の一切の収入及び支出を、すべて歳入歳出予算に見積ること。
- (2) 経常経費については、原則一般財源ベースで前年度当初予算額を要求限度額とすること。
- (3) 行政改革プロジェクトチームにより行った事務事業総点検を踏まえ、また、決算状況や他市町村の状況を確認するなど、ゼロベースの視点に立ち、予算を見積もること。
- (4) 事業の必要性、緊急性、事業効果などから優先順位を付け、将来の財政負担も十分考慮しながら適切に要求すること。
- (5) これまでの議会対応、監査委員からの指摘事項についても漏れなく検討した上で要求すること。
- (6) 歳入については、新たな歳入の確保について検討すること。
- (7) 特別会計・企業会計についても、編成方針に沿って編成すること。また、基準外の繰出しについては、その必要性を改めて検討すること。

4 総合計画の着実な推進

「住みたくなるまち日本一 ～100年間ひとが増え続けるまち～」の実現に向けて、令和8年度からスタートする第2次富谷市総合計画に定めるまちづくりに従い各種事業を着実に推進すること。併せて引き続き不断の行政改革の取組みを推進すること。